

。

湘南医療大学 ティーチング・ポートフォリオ

大学名 湘南医療大学

所 属 薬学部

名 前 鈴木 勉

作成日 2023 年 9 月

1. 教育の責任

教育活動として、現在担当している科目は薬学入門 I、必須、1学年； 薬学入門 II、必須オムニバス、1学年；早期臨床体験実習、必須オムニバス、1学年；薬と毒性学入門、選択(薬学部)、必須(看護学科)、1学年；医療薬学チュートリアル演習 I、必須オムニバス、2年生の講義及び演習を行なっている。

教育活動として毎週水曜日に薬学部運営管理会議に参加して学長より学部運営の指示を受けて活動を行なっている。また、その前段階として、毎週火曜日に学部長・学科長会議で大学行事や運営管理会議の準備を行なっている。薬学部では毎月第2、4水曜日に運営管理会議及び学部長・学科長会議の内容を私から薬学部教員に周知している。さらに、学部内で12の学部合同委員会(自己点検・評価、図書、地域連携推進室、研究倫理、衛生、紀要、国際交流、FD、ハラスメント防止、研究不正防止推進、学生キャリア支援センター、利益相反管理)、薬学部委員会(入学試験、入試判定会議、教務、学生支援、研究推進室、動物実験、遺伝子組換え実験安全)で学部をまとめている。

2. 私の理念・目的

1) 私の理念

能力の差は小さいが、努力の差は大きい。継続の差はもっと大きい。習慣の差が一番大きい。そして、習慣になった努力を実力と呼ぶ。このことを、学生に対する教育の信念としている。すなわち、能力がないからダメだと言う学生もある程度いるが、その前にちゃんと努力しているのか？努力が足りない場合が非常に多い。それも、一時的な努力ではダメで、継続することがとても大事であることを、学生に理解して貰うように務めている。そして継続の結果、習慣になった時に始めて実力となることを体感して欲しいと願っている。また、「和顔愛語」と言う仏教の言葉も大事にしている。学生はもちろんのこと、教職員の方々にも、私自身がいつも穏やかな表情で、優しい言葉でお話することを心がけている。さらに、10の戒めとして、1)高いつもりで、低いのが教養、2)低いつもりで、高いのが気位、3)深いつもりで、浅いのが知識、4)浅いつもりで、深いのが欲望、5)厚いつもりで、薄いのが人情、6)薄いつもりで、厚いのが面皮、7)強いつもりで、弱いのが根性、8)弱いつもりで、強いのが自我、9)多いつもりで、少ないのが分別、10)少ないいつもりで、多いのが無駄。を心がけている、

2) 理念をもつに至った背景

最初の能力に関する思いですが、本学に就任して学生が能力がないとか、自信がないと言っているのを耳にしました。それで、能力の差は小さいので、努力すれば結果が出せる。その努力も、1、2回ではダメで、継続的に努力する必要があることを伝

え、習慣とすることを願っている。

次の「和顔愛語」は前任校で、教員や大学院生に機会あるごとに話して、実行してもらっていた。学生が勉学や研究に取り組むときに、指導にあたる者が取るべき姿勢として穏やかな顔で優しい言葉を学生にかけるように指導していました。このような態度はミラー現象で必ず相手(学生)に伝わります。

最後の10戒は前任校で教員及び大学院生にラミネートした10戒を配布して、机の上に置き、機会あるごとに観るように勧めていました。大学院生は本棚にこの10戒を貼り、朝教室に出て来たら観てから、講義や研究を行なっていました。誰しもがそうですが、川の水は高いところから低い方に流れ、人は困難な事から楽な事に流れがちです。このような事を、教員や大学院生は10戒を観て困難な事に立ち向かってくれたと確信しています。

3. 教育の方法・戦略

講義には必ず教科書を指定して、講義は教科書に沿って行なっている。毎回の講義ではプリントを作成して、教科書の内容解説や補足資料を用いて理解を促すように務めている。「薬学入門 I」ではさらに視聴覚教育を取り入れ、日本病院薬剤師会監修「次世代を拓く！病院薬剤師の新たな業務展開」、①急性期病棟における薬剤師業務、②チーム医療へのさらなる貢献、③感染制御を支える薬剤師の取り組み、④NST 活動の進展に果たす薬剤師の役割、⑤緩和ケアチームにおける薬剤師の役割、を適宜用いて病院薬剤師の理解を促した。さらに、フジテレビで放映された「アンサンブル・シンデレラ 病院薬剤師の処方箋」を一部視聴させたところ、学生は大変興味を示して理解度を高めることができた。

また、「薬と毒性学入門」は薬学部医療薬学科が選択教科であるが、保健医療学部看護学科は必須と歪んだ形になっているので、両学科を必須にするように検討すべきと考えている。「薬と毒性学入門」は、私が前任校で監修・出版した「毒と薬」を教科書として講義を行なっている。本書は写真や図表を数多く取り入れているので学生の理解を促すことができると考えている。また、章立ても第1章から第8章までとなっており、8回の講義で行うには合致している。第8章では「毒と薬の事件ファイル」を取り扱い、その中には薬害も含まれ、2度と繰り返してはいけないサリドマイド事件についても講義を行う。幸い、私の教え子(塩崎由直博士)にサリドマイドの方がおられる。そこで、塩崎由直博士にサリドマイド事件についての講義をお願いしたところ、快く引き受けて頂いた。塩崎先生は薬害全般について講義され、中でもサリドマイド事件についてはご自身の体験も含めて詳しく講義して頂いている。前回は薬がもたらしたこのような悲劇を学生が目目の当たりにして絶句していた。薬の使い方を間違えると、このような悲劇も起きうる事を体感できたように感じている。このような講義は文部科学省も推奨しており、薬を扱う薬剤師や看護師を目指す学生には必須と考えている。

。

4. 学習成果

1) 学生アンケートの結果、学習意欲は高く、難易度はちょうど良かったと回答している。また、90%以上が授業内容が身についたと回答している。また教員の熱意も感じられ、進行速度もちょうど良いが60%であった。少し早いと早いを合わせると30%になるので、この点が検討課題である。

2) 令和4年度麻薬・覚醒剤・大麻乱用防止運動神奈川県大会に本学1年生(現2年生)の参加希望者を引率し、パネルディスカッションと大会宣言をしたことは学生自身にとっても、また本学としても誇れる内容と思う。

5. 改善のための努力

講義速度が少し早いとのアンケートがあったので、講義内容の精査及び見直しを行なって削減できるところを検討したい。その結果として、講義速度を少し落とすように努力したい。

6. 今後の目標

現在、研究ができる状況にないので、これまでに集積したデータを論文化したい。達成時期としては、今年度内を目指す。

【添付資料】

薬学入門 I 学生アンケート.pdf

薬と毒性学入門 学生アンケート.pdf

厚生労働省 神奈川県主催イベント[トピックス] | 湘南医療大学.pdf